

A-54 牛乳の加熱によつて生じる皮膚蛋白質の分画について (才2報)

日本女大家政 荒井基

目的 才1報において牛乳の加熱によつて生じる皮膚中の蛋白質は $\alpha_s$ カゼインおよび $\beta$ カゼインが主成分であることと報告したが今回は ①前回分画できなかった大カゼインその他が小さくまわっているかどうか、②皮膚はいさど取り去つても次々と生成されてゆくか、それらの皮膚蛋白質の組成に差異があるか、などと検討した。

方法 ホリアフリルアミドゲルを支持体とし、アミドゲル用ブリッジ電気泳動装置を用いて平板式電気泳動法による蛋白質分画を行った。試料は皮膚採取後脱脂、透析を行い、トリス緩衝液に溶解して調整した。ゲル調整にはトリス緩衝液にメルカプトエタノール、尿素を加え、緩衝液槽には硼酸緩衝液を用いた。泳動時間4時間、電圧120V、電流55mAであった。

結果 前回と同様皮膚蛋白質の主成分は $\alpha_s$ カゼインと $\beta$ カゼインであったがこれらのほかに $\delta$ カゼイン、 $\kappa$ カゼインと思われるバンドを見出し得た。また1本の牛乳から次々と生成される皮膚を9回採取したもつについて検討してみると、いづれの皮膚の蛋白質も $\alpha_s$ カゼインと $\beta$ カゼインがその主なるものであつて両者の割合もあまり大きな変化がみられなかつた。